

## 令和6年度 学校関係者評価委員会 評価結果報告

埼玉医療福祉会看護専門学校

1. 開催日時：令和7年5月26日（月） 14時～15時30分
2. 場 所：埼玉医療福祉会看護専門学校2階研究室1
3. 出席者：原嶋 弥生（埼玉医科大学病院看護部長）  
横塚 智実（丸木記念福祉メディカルセンター看護部長）  
村田 亨（同窓会会長 <丸木記念福祉メディカルセンター精神療養  
第2病棟兼第3病棟看護師長>）  
諸田 一雄（埼玉医療福祉会事務局長）

（敬称略）

オブザーバー：藤山 トキ（埼玉医療福祉会看護専門学校 顧問）  
大野 敏之（埼玉医療福祉会看護専門学校 事務長）  
佐竹 美千子（埼玉医療福祉会看護専門学校 副校長）

#### 4. 配布資料

- ・令和6年度埼玉医療福祉会看護専門学校自己評価結果
- ・教育理念・教育目的・教育目標・ディプロマポリシー
- ・令和6年度学校運営組織図
- ・24回生 ディプロマポリシーの評価

#### 5. 進行

- ・1～10の項目について、藤山が補足説明を加えながら話し合い、下記の①～⑩の学校運営全体の評価をした。

#### 6. 評価項目

- ① 教育理念・目的・人材育成像
- ② 学校運営
- ③ 教育活動
- ④ 学修成果
- ⑤ 学生支援
- ⑥ 教育環境
- ⑦ 学生の募集と受入れ
- ⑧ 財務
- ⑨ 法令遵守
- ⑩ 社会貢献・地域貢献

## 7. 結果

### ● 項目別評価結果

<評価基準>適切4、ほぼ適切3、やや適切2、不適切1

#### (1) 教育理念・目的・人材育成像

1-1	学校の教育理念・目的・育成人材像は定められているか	4
1-2	理念等の達成に向けた特色ある教育活動に取り組んでいるか	4

##### 評価コメント(自由記述)

・法人の理念である「限りなき愛」に基づく倫理観を磨くことに対して、ほとんどの学生が努力している等、理念達成に向けて、学生の特性に合わせた関わりや必要となる支援を工夫しながら、教育理念の達成や目指すべき人材の育成に取り組んでいることがわかる。

#### (2) 学校運営

2-1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2-2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
2-3	学校運営のための組織を整備しているか	4
2-4	意思決定システムは、規則・規程等で明確にしているか	4
2-5	情報システム化等により業務の効率が図られているか	1

##### 評価コメント(自由記述)

・令和6年度学校長交替により、運営方針として学生の確保と国家試験対策の強化が新たに打ち出された。とくに学生確保については法人本部職員の参入により、次年度に向けて始動するなど、課題クリアに向けて努力している。  
 ・2-3、2-4はとくに問題なく実施できている。  
 ・情報システムの整備は昨年度から進展はないようだが、出席管理や学生への通知などのシステム整備を検討している。

#### (3) 教育活動

3-1	教育の理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか	4
3-2	成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4
3-3	授業評価の実施体制はあるか	4
3-4	資格・免許取得の指導体制はあるか	4
3-5	教員の質向上への取り組みは行っているか	4
3-6	教員の組織体制を整備しているか	4

##### 評価コメント(自由記述)

・3-1、3-2については問題なく実施できている。  
 ・すべての講師、及び臨地実習の授業評価を実施しており、結果を担当講師にフィードバックしており、授業評価については問題なく実施されている。

- ・資格・免許取得に向けた指導体制は、個々の学生の学力を考慮し、モチベーションをあげる関りができている。とくに国家試験受験時期にある3年生においては、あらゆる対策を講じて1年間しっかり対策を講じている。
- ・教員の組織体制が整備されており、研修等の受講により自己研鑽が行われている。

(4) 学修成果

4-1	就職率の向上が図られているか	4
4-2	資格・免許の取得率の向上が図られているか	4
4-3	卒業生の社会的評価を把握しているか	4

評価コメント(自由記述)

- ・実習施設でもある埼玉医科大学系列施設への就職率が高く(98.6%)、問題なく卒業生全員が看護職として就職している。免許取得率向上を目指した国家試験対策を1年次から実施している。とくに最終学年となる3年次は、実習終了後に本格的に取り組んでいるが、全員合格には至っていない。全員合格を目指した国家試験対策の検討が課題である。前年度の国試不合格者に対して、卒後1年間学校がサポートしているのは評価できる。
- ・卒業生の社会的評価について毎年実施しており、就業状況の調査結果について分析し、就業状況を把握している。

(5) 学生支援

5-1	退学の低減が図られているか	4
5-2	学生相談に関する体制を整備しているか	4
5-3	学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4
5-4	学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4
5-5	学生寮の設備などの生活環境支援体制を整備しているか	4
5-6	保護者との連携体制を構築しているか	4

評価コメント(自由記述)

- ・退学につながる要因(学力、健康面など)に対し、対応や改善策を検討し実施している。定期面接や臨時面接の結果を学習指導や生活指導に活かしており、とくにメンタル面での悩みを抱える学生に対しては、専従の教員が相談者として関わっている。メンタルヘルス相談が上手く機能している。令和6年度の相談延べ件数は昨年比31件の増である。また、メンタル不調による退学者は出ていないということで、5-1、5-2はしっかりした対応が実施できている。
- ・学生の経済的支援体制については、令和6年度には法人奨学金が月額5万円にアップした。看護師養成所の授業料は比較的リーズナブルである等、経済的側面での支援が検討され実施できている。

(6) 教育環境

6-1	教育上の必要性に十分対応した施設、教育用具等を整備しているか	2
6-2	学外学習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	1

6-3	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3
-----	---------------------------	---

評価コメント(自由記述)

- ・教育用具、とくにプロジェクターは経年に伴い故障する頻度が多く、授業に支障をきたすことが度々ある。
- ・施設関連については、トイレの整備が課題であったが、学校関係者評価委員の後押しで、トイレの整備を要望していくことになった。
- ・学外研修や海研修制度の実施体制はない。インターンシップについては、ほとんどの学生が埼玉医科大学系列の施設を希望して就職しているため、積極的にインターンシップを推奨していなかった。埼玉医科大学系列でインターンシップの受入れが再開したということで、実施に向けて臨床の協力が得られることになった。
- ・学校独自の防災計画は整備していないが、避難訓練は年1回実施している。しかし、BCPの作成をしていないということで、今後作成に取り組む予定になった。

(7) 学生の募集と受入れ

7-1	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4
7-2	学生募集活動を適切に、かつ、効果的に行っているか	4
7-3	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4
7-4	入学選考に関する実績を把握しているか	4
7-5	経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4
7-6	入学辞退者に対し、授業料等について適正な取り扱いを行っているか	4

評価コメント(自由記述)

- ・7-1、7-3、7-4、7-5、7-6については適切に運用できている。
- ・7-2について、志願者の減少対策として、学校説明会の回数を増やしやり、説明会の内容の見直し、また入学試験回数や試験問題の見直し等さまざまな工夫をしながら実施してきたが、結果につながらなかった。そこで設置主体である法人事務局の幹部職員とのコラボレーションが実現し、令和7年度の学生確保に向けてスタートした。法人として学生確保に取り組んで行くことになり期待したい。

(8) 財務

8-1	学校及び法人運営の財務基盤は安定しているか	2
8-2	予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	2

評価コメント(自由記述)

- ・財務は法人経理が担当している。収入減の一番の要因は、総学生数の減少に伴うものである。総定員240名に対し、令和6年度218名(令和6年4月1日現在)となっている。安定した財務管理は定員の確保と、入学した学生が卒業できるような学校運営に取り組むことが課題であると考えます。

(9) 法令遵守

9-1	法令や専修学校設置基準を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4
9-2	学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4
9-3	自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	4
9-4	自己評価結果を公表しているか	4
9-5	学校関係者評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	4
9-6	教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4

評価コメント(自由記述)

- ・ 9-1~9-6 の項目は適切に実施されている。

(10) 社会貢献・地域貢献

10-1	学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	1
------	---------------------------------	---

評価コメント(自由記述)

- ・ 令和6年度は、学生に対して積極的なボランティア活動支援は実施していない。地域で実施しているイベントに参加するなど、近隣の市町村と連携してボランティア活動ができるような機会を設けてもよいのではないかと。また、法人施設内でボランティア活動を検討していくことも考えてはどうか。